

これからの本市公民館の役割及び将来像について

公民館は、これまで長きに渡り地域住民のために社会教育を推進する拠点施設として中心的な役割を果たしてきました。

令和2年からの新型コロナウイルス感染症により公民館活動は大きく制限され、これまで受け継がれてきた住民同士をつなぐイベント等の中止など、地域の連帯感の希薄化が進みましたが、令和5年5月に感染法上の位置付けが5類に移行してからは、以前のような活気に満ちあふれた公民館活動が戻ってきたことを実感しています。

約3年間に及ぶコロナ禍の経験から、改めて人と人とのつながりや、その拠点となる身近な地域の集いの場・学びの場としての重要性を再認識しました。

また、社会的包摂の視点や多文化共生社会の実現に向けた新たなつながりや学びの創出といった役割がこれからの公民館には求められていることも事実です。

今後も本市の公民館が、地域の生涯学習・社会教育の拠点施設であり続けるために、できるだけ早急に検討していただきたい「要望事項」と、これからの公民館に期待する「提案事項」に分けて、以下のとおり提言をまとめました。

提 言

1 要望事項

(1) 予約受付期間の見直し

公民館使用の予約受付は、使用日の2カ月前から、大ホールについては3カ月前から、遊亀公民館の展示室は6カ月前から前日まで受付という取扱の原則があります。しかし、大規模な行事やイベントなど、現行の受付期間では事前周知や事業の運営などに支障が生じ、計画的な活動ができないのが現状であることから、弾力的な対応を検討していただきますよう要望いたします。

(2) 予約方法の見直し

公民館の使用については、まず電話で予約を行い、その後窓口で使用許可申請書を提出して使用料を納付する方法で行っていますが、予約開始時間に電話をすることが

難しい方々への配慮が不足していると感じます。誰もが、いつでも、簡単に予約ができるよう、FAX 予約の整備やインターネット予約ができる環境の構築を要望いたします。予約の選択肢を増やすことで、あまり利用したことがない若者の取り込みも期待でき、公民館の利用促進、生涯学習の活性化に繋がるのではないかと考えます。

(3) 空き状況確認方法の見直し

公民館の空き状況は公民館ごとに管理しているため、公民館に直接問い合わせをするか「やまなしくらしねっと」から確認をするかになりますが、いずれも公民館ごとに確認する必要がある利便性に欠けているのが現状です。全ての公民館の空き状況がインターネットから一覧で適時確認できるシステムの構築を要望いたします。

(4) Wi-Fi 環境の整備

デジタル社会の進展に伴い、公民館における Wi-Fi 環境整備は喫緊の課題であると考えます。デジタルを活用した学びによる学習機会の充実、防災の拠点としての機能強化、会議資料のペーパーレス化など利用者の利便性の向上、行政サービス機能の改善など様々な利点が見込まれ、多様な価値観や遠隔地との交流など人と人とのつながりを大きく広げることができると考えます。このことから、公民館の Wi-Fi 環境の整備を要望いたします。

(5) 備品の整備・老朽化対策・駐車場の確保

現在、公民館には組み立て・収納に労を要する使い勝手が悪い机や、ガムテープで補強した椅子など、古い備品が数多く見受けられます。また、建物自体についても、老朽化で地域住民から敬遠されている公民館があるのが実情です。公民館の新築や改築を要望するとともに、車椅子の方がお一人でも来館できるなど誰もが安心安全に利用できるバリアフリーへの配慮のほか、若者を中心に音楽活動やダンスなど幅広い用途での利活用が期待できる防音室や防振室の設置など、時代に適合した新しいアイデアを取り入れた整備についても検討していただくことを希望いたします。

同時に、駐車場の許容台数が少なく支障をきたす公民館がありますので、広い駐車場の確保、整備を望みます。

2 提案事項

(1) 館内掲示・館内案内の見直し

公民館には様々なチラシや生活情報などを紙媒体で受け取れる情報スペースがありますが、情報が混在し、せっかくのスペースが機能していないと感じます。ポップの活用やレイアウトを工夫することで、必要な情報を提供することができると考えます。

また、館内の案内表示につきましては、地域の実情に合わせた行政サービスの案内や防災時の情報発信などについて、多言語表記や視覚的にわかりやすい表示を行い、外国人や視聴覚障がい者などへの配慮を検討していただきたいと思います。

(2) 公民館の周知・公民館の情報発信

公民館を頻繁に利用する方がいる一方、若者や男性、外国人など一度も利用したことがない方もたくさんいます。新たな利用者を取り込むために、公民館の利用方法や講座・イベント情報について地区回覧などを利用し周知を行う、暮らしに身近なスーパーマーケットやコンビニエンスストアにチラシを掲示するなど、様々なツールを活用した積極的な情報発信を検討していただきたいと思います。

また、生涯学習情報誌「まなび」を多くの施設に配布することで、生涯学習・公民館をより身近に感じることができるようではないかと考えます。

(3) 出前講座の活用

現在、生涯学習課では市民講師や市職員を派遣し学習会や講演会などに活用できる「出前講座」を運用しています。公民館の各種学級ではこの出前講座を頻繁に利用していますが、普段公民館をあまり利用されない方には存在自体を知らない方も多く、浸透されていません。より多くの方に出前講座を周知して活用してもらうことで、市民の学習意欲の醸成に繋がるのではないかと考えます。

(4) 地域における安全・安心の場としての活用

公民館は災害時の防災拠点としての役割も果たしていますが、地域住民にあまり浸透していない印象を受けます。関係機関と連携しながら災害時における適切な対応や役割の整備をすすめ、公民館が避難所の一つであること、避難所としての機能を有し

ていることの周知を行うことを提案します。

また、避難した際にどのような生活ができるのか、地域住民がシミュレーションできる機会があると、災害時に役立つのではないかと考えます。

さらに、公民館の一角に防災コーナーを設置し、防災教育の啓発活動を行うことを提案します。

（５）地域の交流拠点としての公民館づくり

地域住民が世代を問わず誰もが誰とでも気軽に集う公民館になるために、次の提案をいたします。

- ①児童・生徒の長期休暇中に上級生やボランティアの元教員などが宿題を教える学習支援事業の実施や、学校に行けない子どもや孤独な子どもなどが気軽に集える居場所づくりの事業を提案します。
- ②若者が気軽に集えるよう、学習スペースやコミュニティスペースなどの空間提供を提案します。
- ③外国人の生活支援や相談、地域住民との異文化交流につながる事業の企画を提案します。
- ④高齢者を中心とした孤食者の生活を支援する事業（ほうとう作り教室を開催して作ったほうとうを孤食者に食べてもらうなど）を提案します。
- ⑤就職支援、キャリア相談など各種相談会の開催を提案します。
- ⑥地域の特性を生かした、世代を問わず誰もが気軽に参加できるイベント（フリーマーケット、洋服交換会、キッチンカーが並ぶイベント、地域住民が企画したイベントなど）の開催を提案します。
- ⑦クールスポット・ホットスポットとしての施設利用を周知し、誰もが気軽に訪れて館内ウォーキングやテレビ観覧、喫茶スペースでの談話など、地域住民の交流の場としての空間づくりを提案します。
- ⑧自宅で学んだり仕事をしたりする若者や働く人が気軽に使えるテレワークのスペースや、遠隔地との学習機会に役立つ簡易なテレワークブースを提案します。

（６）デジタル技術を活用した新しい「学び」

要望事項「（４）Wi-Fi環境の整備」が整いましたら「デジタル」と「リアル」の双方を活用した効果的な学びが展開されるよう、次の提案をいたします。

- ①高齢者を中心としたスマートフォンの操作方法やキャッシュレス決済の方法、マイナンバーの講座など、デジタルデバイドの解消に繋がる講座の通年開催を提案します。
- ②子育てや介護に従事している方や外出困難な方などが公民館に足を運ばなくてもオンラインで参加できる講座、県外の講師による学びの質を深める Web 講座、勤労者が空き時間に受講できる講座などデジタルを活用した講座の開催を提案します。これにより、時間や場所に関わらず学習機会の拡大・拡充に寄与することができ、学びたい気持ちを応援する環境の醸成に繋がると考えます。
- ③県や他市町村などが開催する講座をオンラインで相互活用することにより学習機会の拡大が図られ、加えて他の地域との交流や情報交換が期待されます。
- ④青少年やその保護者、高齢者などを対象としたデジタルリテラシーの向上を目指した教育も必要であると考えます。

(7) これから期待する学びの創出

これからの公民館の「学び」について、次のとおり提案します。

①連続講座の開催

テーマに沿った講座を連続して複数回開催するなど一定期間をかけることで、より深く知識を得ることができると考えます。

②住んでいる地域の歴史を知る講座の開催

自分の住んでいる街の歴史や成り立ちなどを知る講座を開催することで、地域への愛着が増し、ひいては甲府に住み続けたいと思う心の醸成に繋がるのではないかと考えます。

③専門性の高い講座の開催

デジタル技術を生かした講座も含め、公民館図書室を活用した講座やキャリアアップにつながる講座など、専門的な知識や技術を習得する講座の開催を提案します。

④地域の中での「独り」を減らし「絆」を共創する講座の開催

不登校に悩む若者や地域に不慣れな外国人、介護や病気治療などで気軽な地域参加ができにくくなっている人たちに働きかけて、「独り」で悩むのではなく、「絆」を共創する事業を提案します。

(8) 甲府駅付近に集いの場の設置

現在、市内に 9 か所の公民館がありますが、公共交通機関を利用して出向くには不便な場所が多いのが実情です。車の運転ができない若者や高齢者にも利用が可能な交通の便が良い甲府駅付近に、気軽に集える場所や打合せができるスペース、簡易なテレワークスペースを新設することにより、中心街の活性化、若者と高齢者の交流促進、幅広い層の豊かな学びの醸成などに繋がるのではないかと考えます。

以 上